

国際関係理論と 第一次世界大戦 の開戦原因

-歴史研究の進展が
理論研究に及ぼす影響-

日時

2017年12月26日(火)
16:30 ~ 18:00

場所

同志社大学
良心館 **RY440**教室

講師

今野 茂充

東洋英和女学院大学国際社会学部准教授
慶應義塾大学法学研究科政治学専攻後期博士課程修了。博士（法学）。専攻は、国際関係理論、安全保障研究。近著として『第一次世界大戦への道——破局は避けられなかったのか』（共訳、ウィリアム・マリガン著、慶應義塾大学出版会、**2017**年）、『東アジアのなかの日本と中国——規範・外交・地域秩序』（共編著、晃洋書房、**2016**年）などがある。

同志社大学
アメリカ研究所
第**3**部門研究
公開研究会

アメリカを中心に発展してきた国際関係理論のなかで、戦争原因の解明は重要な論点の一つである。ところが近年、歴史研究の進展により、これまで広く援用されてきた通説の一部が修正される事態が生じている。歴史研究の進展は、過去の通説に依拠して構築された理論にどのような影響を及ぼすのか。歴史事象の理論分析にはどのような意味があるのか。第一次世界大戦勃発を事例として扱う理論研究の比較検証を通じて考察する。

入場無料
申込不要